

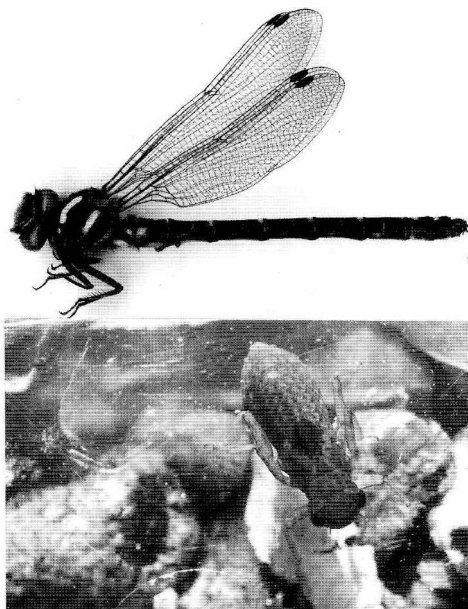
## 愛知県岡崎市のムカシトンボの分布概要

山本 英治・柵木 宗孝

岡崎市のムカシトンボの記録は新編岡崎市史の資料編の鈴木(1985)には岡崎市内からは記録されていないが、市が額田地域と合併した段階で、分布が知られている額田地域が加わり、安藤ほか(1990)が「愛知県のトンボ目」の中で、古くから知られていた額田町クラガリ溪谷などが記録されている。筆者らは市が額田地域と合併を機に本種の分布について調査してきたが、下記の地域で成虫や幼虫を確認したのでここに記録する。

1. 乙川水系：千万町、ヤゴ(図下)、21-II-2009; 毛呂町、ヤゴ、31-VIII-2011; 木下町、ヤゴ、31-VIII-2011.
2. 男川水系：石原町、ヤゴ、3-V-2009; 石原町、♂ 1(図上) ♀ 1、10-V-2009; 石原町、ヤゴ、VI-2009; 石原町、ヤゴ、29-VIII-2010; 石原町、ヤゴ、24-IX-2010.
3. 巴川水系：千万町、ヤゴ、16-V-2010.

これまでの調査主としてヤゴ(幼虫)で生息を確認したが、一部では成虫でも確認した。これまでの調査では、岡崎市での本種の分布は、額田地域の乙川水系と男川水系と巴川水系の上流部に限られているように思われる。詳しい採集地点については、本種の保全の意味もあり、省略した。末尾に岡崎市のトンボ類の分布について、種々指導を頂いている鈴木栄二先生に感謝の意を表する。



図上、ムカシトンボ、♂、くらがり溪谷(10-V-2009)  
下、ムカシトンボの幼虫、千万町(21-II-2009)

### 引用文献

- 鈴木栄二(1985) 岡崎市のトンボ類。新編岡崎市史・自然(14):811-837.  
安藤 尚ほか(1990) 愛知県のトンボ目。愛知県の昆虫(上): 9-78.

## オナガカツオゾウムシを豊田市で採集

城 殿 浩

筆者は愛知県未記録と思われるオオナガカツオゾウムシ *Lixus moiwanus* Kono を愛知県豊田市(旧稲武町)においてセリ科植物上で採集したので報

告する。

標本：愛知県豊田市小田木町、2exs.、31-VII-2011、城殿採集。

# 愛知県岡崎市のテントウムシ科

山崎隆弘

愛知県岡崎市は、古くから矢作川を中心に発展してきた商工都市である。2006年1月1日には額田郡額田町と合併し、面積の拡大と共に山地性の種が加わることになった。筆者はここ数年来、当地域において甲虫類の調査を行っているが、その中にテントウムシ科の採集品があるので以下に報告したい。

本文を草するにあたり、ご指導や現地調査で大変お世話になった大平仁夫博士、浅岡孝知氏をはじめ三河昆虫研究会の諸氏にし厚く感謝申し上げます。

## テントウムシ科 COCCINELLIDAE

テントウムシ科は日本からは約180種が記録されている。近似種や小型種が多く同定には困難なものも少なくない。本科は植物の害虫であるアブラムシ・カイガラムシ・菌類などを食べるため有益昆虫として知られているが、一部のニジュウヤホシテントウの仲間ではナス・ジャガイモ・ルイヨウボタン・トチバニンジンなどを食べる食植性である。また最近では、外来種も徐々に見られるようになった。

## 岡崎市のテントウムシ科目録

この目録は新岡崎市における筆者の採集品および文献記録をまとめたものである。同一産地におけるデータは最新の1例のみとした。採集記録の地名で次のものは町名を省略して記した。本宮山山頂部(石原町)、闇苧溪谷(石原町)、おおだの森(夏山町)、雨山ダム(雨山町)、扇子山(山綱町)である。旧額田町の地名はすべて岡崎市への合併後のものとした。学名は日本環境動物学会編のテントウムシの調べ方「日本産テントウムシ科目録」に従った。これらの標本は筆者の下で保管している。

## メツブテントウ亜科 Sticholotinae

### 1. クロツヤテントウ

*Serangium japonicus* Chapin,1940

採集記録: lex., 山綱町, 18-V-1980; lex., 本宮山山頂部, 22-VII-2006; lex., おおだの森, 1-V-2010. 樹葉上におり、コナジラミ類を捕食する。愛知県全域に生息している普通であるが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

## ヒメテントウムシ亜科 Scymninae

### 2. クビアカヒメテントウ

*Sasajiscymnus sylvaticus* (Lewis,1896)

[図1, A]

採集記録: lex., 池金町, 13-VIII-1994; lex., 山綱町, lex., 5-V-1985. 本州以南に分布する暖地性の種である。岡崎市からは雨山町(照井1989)の記録が唯一である。山崎(1990)の記録は同一個体の再録である。

### 3. アトホシヒメテントウ

*Nephus phosphorus* (Lewis,1896) [図1, B]

採集記録: lex., 八ッ木町, 19-IV-2010. 日本全土に分布し、オオワタカイガラムシの天敵として知られている普通種である。愛知県では低山地から平野部に広く生息している。岡崎市からは大代・雨山(山崎1990)の記録がある。

### 4. オシマヒメテントウ

*Nephus oshimensis* Sasaji,1976

採集記録: lex., 雨山ダム, 13-V-2007. 本州に分布する種で、愛知では河川敷や海岸部に普通であるが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

### 5. ナガヒメテントウ

*Scymnus ruficeps* (Ohta,1929)

採集記録: lex., 本宮山山頂部, 5-VIII-2006; lex., 東河原町, 30-IV-1988. 愛知県では低山地から海岸部に生息しているが記録上は少ない。岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

### 6. バイゼヒメテントウ

*Scymnus contemptus* (Weise,1923) [図1, C]

採集記録: lex., おおだの森, 30-IV-2011. 本州以南から台湾にかけて分布している。愛知県では

低山地に生息するが記録的には少ない。岡崎市からは扇子山(山崎 1990)の記録がある。

#### 7. クロヒメテント

*Scymnus japonicus* Weise, 1879

採集記録: lex., おおだの森, 1- V -2010. 本州以南に分布する種である。愛知県では山地から三河湾の島嶼まで生息している。岡崎市からは上衣文町(山崎 1990)の記録がある。

#### 8. チュウジョウヒメテントウ

*Scymnus chujoi* Sasaji, 1982 [図 1, D]

採集記録: lex., 蔵次町, 12- IV -1992. 本州九州に分布する種である。愛知県では奥三河山地から三河湾の島嶼まで生息しているが少ない。岡崎市からは扇子山(山崎 1990)の記録がある。

#### 9. カワムラヒメテントウ

*Scymnus kawamurae* (Ohta, 1929)

採集記録: lex., 小呂町, 8- V -2007; lex., 池金町, 3- VII -1994; lex., 本宮山山頂部, 5- VIII -2006; lex., 雨山ダム, 23- V -2007. 全国的に分布し、愛知県では平野部に普通で、三河湾島嶼にも生息している。岡崎市からは上衣文町(穂積 1990)の記録がある。

#### 10. コクロヒメテントウ

*Scymnus posticalis* Sicard, 1912

採集記録: lex., 蔵次町, 13- IV -1996; lex., 八ッ木町, 23- VIII -2011; 2exs., 上衣文町, 13- V -1979; 2exs., 鶴巣町, 27- IV -1980; lex., 大幡町, 12- XI -2011; lex., 池金町, 13- VIII -1994; lex., 山綱町, 1- IX -1985; 3exs., 本宮山山頂部, 23- V -2002; 11exs., おおだの森, 5- V -2011; lex., 東河原町, 23- IV -2005; lex., 雨山ダム, 28- X -2009. 愛知県では各地に生息するきわめて普通の種である。岡崎市からは本宮山(神谷 1955)、山綱町(大平 1985)の記録がある。

#### 11. クロヘリヒメテントウ

*Scymnus hoffmanni* Weise, 1879

採集記録: lex., 八ッ木町, 14- IV -1996. 本州以南に分布する暖地性の種である。愛知県では平野部の河川敷や湿潤地に多く、海岸部の埋立地や三河湾島嶼にも生息するが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 12. カバイロヒメテントウ

*Scymnus fuscatus* Boheman, 1858 [図 1, E]

採集記録: lex., 池金町, 18- IX -1994. 本州以南から東南アジアまで分布する暖地の普通種であるが、愛知県では記録が少なく、これまでに犬山市、蒲郡市、三河湾の佐久鳥程度である。岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 13. ババヒメテントウ

*Scymnus babai* Sasaji, 1971

採集記録: lex., 八ッ木町, 23- VIII -2011. 本州以南に分布する暖地性の種である。愛知県では平地の河川敷やヨシ原に多くいるが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 14. フタホシテントウ

*Hyperaspis japonica* Lewis, 1896

採集記録: lex., 蔵次町, 26- V -1996; 5exs., 八ッ木町, 11- V -1996; lex., 上衣文町, 27- IV -1980; 2exs., 鶴巣町, 27- IV -1980; lex., 池金町, 13- VIII -1994; 2exs., 扇子山, 2- VI -1985; 2exs., 山綱町, 18- V -1980; lex., 本宮山山頂部, 28- V -2005; lex., 東河原町, 23- IV -2005; lex., 雨山ダム, 17- IV -2005. 全国的に分布する普通種でコナカイガラムシの天敵として知られている。愛知県では全域に生息しており記録も多い。岡崎市からは本宮山(穂積 1985)、本宮山・閻苅溪谷・雨山町・大代町(照井 1989)、東河原町河辺(山崎 1990)、山綱町扇子山(穂積 1990)の記録がある。

クチビルテントウムシ亜科 Chilicorinae

#### 15. クロテントウ

*Telsimia nigra* (Weise, 1879)

採集記録: lex., 八ッ木町, 14- IV -1996. 全国的に分布しており、マルカイガラムシの天敵として知られている。愛知県では平地に生息するが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 16. フタモンクロテントウ

*Cryptogonus orbiculus* (Gyllenhal, 1808) [図 1, F]

採集記録: 2exs., 蔵次町, 16- VI -1996; 3exs., 八ッ木町, 26- IV -2011; lex., 滝尻町, 23- IV -2009; 2exs., おおだの森, 30- IV -2011; lex., 雨山ダム, 25- V -2007. 本州以南から東南アジアの各地に分布する。愛知県では低山地から海岸部にい

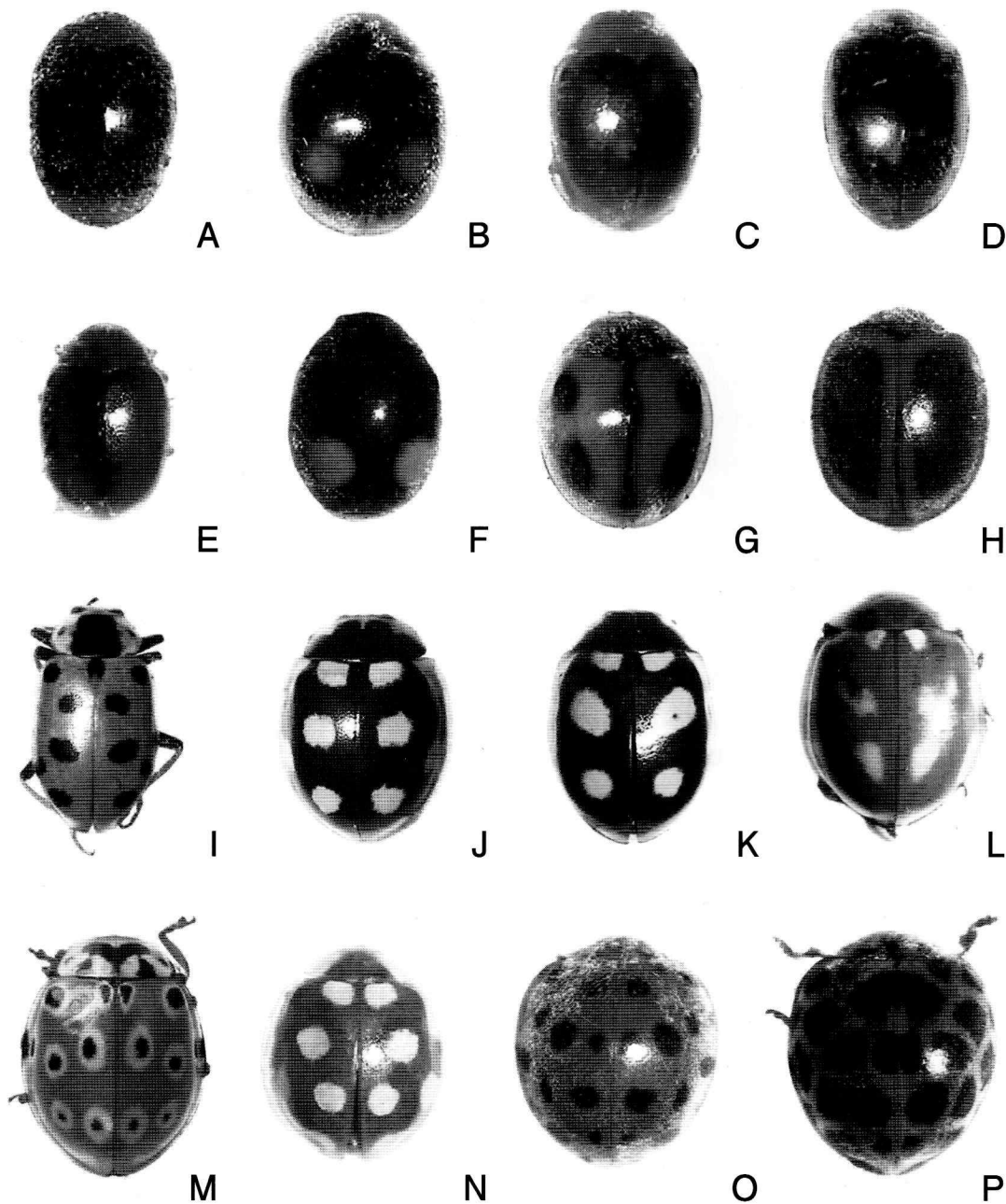


図1. 岡崎市のテントウムシ科所蔵標本

A, クビアカヒメテントウ; B, アトホシヒメテントウ; C, パイゼヒメテントウ; D, チュウジョウヒメテントウ; E, カパイロヒメテントウ; F, フタモンクロテントウ; G, ヨツボシテントウ; H, ベニヘリテントウ; I, ジュウサンホシテントウ; J, ウスキホシテントウ; K, ムツキボシテントウ; L, ジュウロクホシテントウ; M, ウンモンテントウ; N, ルイヨウマダラテントウ.

る普通種である。岡崎市からは上衣文町・山綱町(大平 1985)、闇苧溪谷・雨山町・大代町(照井 1989)の記録がある。

17. ミスジキイロテントウ

*Brumoides ohtai* Miyatake, 1970

体長 2.7-3.4 mm の小型の外来種で、セイタカアワダチソウの白渋菌などを食べている。本種は 1985 年に沖縄市の住宅地で多数が確認され、1986 年には大阪市の港湾近郊でも多数が発生するに至っている。愛知県では海岸部や河川敷で見つかり、や



はり徐々に広がりを見せつつあるが、内陸の地域ではまだ珍しいようである。この地方の海岸部では冬季でも成虫を見ることが出来る。岡崎市からは日名北町（高崎 2004）の記録が唯一である。

#### 18. ヨツボシテントウ

*Phymatosternus lewisii* (Crotch,1874) [図 1, G]

採集記録：lex., 高隆寺町, 29- VI -2011；lex., 八ッ木町, 1- X -2010；；lex., 八ッ木町, 18- VI -1994；lex., おおだの森, 1- V -2010. 本州以南から東南アジアまで分布する暖地性の種である。愛知県では里山に生息するが個体数はそれほど多くない。岡崎市からは上衣文町・大幡町（大平 1985）、雨山町（照井 1989）・大代町（山崎 1990）の記録がある。

#### 19. ヒメアカホシテントウ

*Chilocorus kuwanae* Silvestri,1909

採集記録：lex., 上衣文町, 13- V -1979；lex., 池金町, 18- IX -1994；lex., 山綱町, 3- VI -1979；lex., 本宮山山頂部, 29- VII -2009；lex., 滝尻町, 23- IV -2009；lex., 東河原町, 29- V -2007；lex., 雨山ダム, 17- IX -2005. 全国的に分布する普通種であるが、各種カイガラムシの天敵として重要である。愛知県では各地に生息し記録も多い。岡崎市からは池金町・大幡町（大平 1985）、本宮山・雨山町・大代町（照井 1989）、鶴巣町（穂積 1990）の記録がある。

アラメテントウムシ亜科 Coccidulinae

#### 20. ベニヘリテントウ

*Dodolia limbata* (Motsctulsky,1866) [図 1, H]

採集記録：lex., 蔵次町, 19- I -1992；2exs., 八ッ木町, 14- IV -1996；2exs., 池金町, 18- IX -1994；lex., おおだの森, 5- V -2011. オオワタカイガラムシの天敵として知られている。愛知県ではほぼ全域に生息している普通種であるがスポイト状である。岡崎市からは岡崎市各地（大平 1985）、本宮山・扇子山（穂積 1990）、雨山町・大代町（照井 1989）、大代町（山崎 1990）の記録がある。

テントウムシ亜科 Coccinellinae

#### 21. ジュウサンホシテントウ

*Hippodamia tredecimpunctata timberlakei*

(Linnaeus,1758) [図 1, I]

採集記録：lex., 池金町, 3- VII -1994. 日本全土はもとより、シベリアからヨーロッパ、北アメリカに分布する。愛知県では海岸部の河川敷や、平野部の湿潤地のヨシ原によくいる種であるが、岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 22. ナナホシテントウ

*Coccinella septempunctata* Linnaeus,1758

採集記録：lex., 蔵次町, 16- VI -1996；lex., 八ッ木町, 15- VI -1996；lex., 池金町, 26- III -1994；2exs., 雨山町, 17- IX -2005. 旧北区に分布するきわめて普通の種である。愛知県では全域に分布し記録も多数がある。岡崎市からは本宮山（穂積 1980）、岡崎市各地（大平 1985）、本宮山・閤苅浜谷・雨山町・大代町・千万町（照井 1989）、鉢地町（穂積 1990）、本宮山・大代町（山崎 1990）の記録がある。

#### 23. ウスキホシテントウ

*Oenopia hirayamai* (Yuasa,1963) [図 1, J]

採集記録：lex., 蔵次町, 25- V -1996；lex., 鶴巣町, 27- IV -1980；2exs., 池金町, 30- IV -1979；lex., 山綱町, 5- V -1985；lex., 雨山町, 17- VII -1988. 北海道から九州にかけて分布する種である。愛知県では奥三河山地から低山地で記録があるが多くない。岡崎市からは扇子山（穂積 1990）、本宮山（山崎 1990）、大代町（山崎 2008）の記録がある。

#### 24. ムツキボシテントウ

*Oenopia scalaris* (Timberlake,1943) [図 1, K]

北海道から九州にかけて分布する種である。愛知県では奥三河山地から低山地まで生息しているが、いずれも個体数は少ない。岡崎市からは池金町（大平 1985）、扇子山（山崎 1990）、檜山町（西川 1981）、檜山町（穂積 1990）、大代町（山崎 1990）、雨山町（山崎 2008）の記録がある。

#### 25. ヒメカメノコテントウ

*Propylea japonica* (Thunberg,1781)

採集記録：2exs., 蔵次町, 14- VIII -1996；lex., 古部町, 22- VI -2011；lex., 鶴巣町, 10- V -1980；6exs., 上衣文町, 23- IX -1979；2exs., 池金町, 12- XI -2011；lex., 市場町, 3- VI -1979；2exs., 扇子山, 1- IX -1985；lex., 本宮山, 15- VII -1978；lex., 千万町,

5-Ⅷ-2010; lex., 雨山ダム, 17-Ⅸ-2005; lex., 雨山町, 21-Ⅷ-1988; lex., 大代町, 19-Ⅵ-1988. 北海道から東南アジアまで広く分布する普通種である。上翅の斑紋には変化が見られるが、多くが基本型である。岡崎市からは旧岡崎市各地(大平1985)、本宮山・鉢地(穂積1990)、雨山町(山崎1990)の記録がある。

#### 26. シロトホシテントウ

*Calvia decemguttata* (Linnaeus,1767)

採集記録: lex., 本宮山山頂部, 5-Ⅷ-2010. 日本全土に産する寒地系の種である。愛知県では奥三河山地に生息する種である。岡崎市からは本宮山(穂積1985)の記録がある。

#### 27. シロジュウシホシテントウ

*Calvia quatuordecimguttata* (Linnaeus,1777)

採集記録: lex., 本宮山山頂部, 24-Ⅵ-2010; lex., 東河原町, 29-Ⅴ-2007. 旧北区寒地系の種で日本のほか、台湾やヨーロッパ、北アメリカに分布する。愛知県では奥三河山地から豊川市の宮路山にかけて生息しているが多くない。岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 28. ムーアシロホシテントウ

*Calvia muii* (Timberlake,1943)

採集記録: lex., 八ッ木町, 23-Ⅷ-2011; lex., 高隆寺町, 29-Ⅵ-2011; 2exs., 扇子山, 2-Ⅵ-1985; lex., 本宮山山頂部, 5-Ⅷ-2010. 北は北海道まで分布する暖地系の種である。愛知県では各地に生息する普通種で、特に河川敷には多い。岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 29. ジュウロクホシテントウ

*Sospita oblongoguttata* (Linnaeus,1758)

[図1, L]

採集記録: lex., 千両町巴山, 2-Ⅴ-2004. 北海道・本州・四国・九州から、ヨーロッパ・北米に産する寒地系の種である。愛知県では三河山地に生息する山地性の種である。低地では豊川市千両町で記録がある。岡崎市からはこれが最初の記録と思われる。

#### 30. ウンモンテントウ

*Anatis halonis* (Lewis,1896) [図1, M]

千鳥から九州にかけて分布する寒地系の種であ

る。愛知県では奥三河山地に生息しているが多くない。本宮山でも希に得られることがあり、この山系の南部にあたる豊川市千両町は、県内で最も南の記録地となっている。岡崎市からの本宮山山頂部(山崎2008)における記録である。

#### 31. ナミテントウ

*Harmonia axyridis* (Pallas,1773)

採集記録: lex., 岩中町, 6-Ⅶ-1996; 2exs., 八ッ木町, 22-Ⅵ-2011; lex., 高隆寺町, 29-Ⅵ-2011; lex., 上里町河川敷, 5-Ⅴ-1980; lex., 小呂町, 26-Ⅳ-2011; 2exs., 鶴巣町, 27-Ⅳ-1980; 2exs., 池金町, 3-Ⅶ-1994; lex., 本宮山山頂部, 26-Ⅶ-2011; 2exs., 雨山ダム, 21-Ⅵ-2011; 2exs., 東河原町, 23-Ⅳ-2005. 各地にきわめて普通の種である。岡崎市からは旧岡崎市各地(大平1985)、蘭菊溪谷(穂積1990)、本宮山・雨山町大代町(山崎1990)の記録がある。

#### 32. ダンダラテントウ

*Menochilus sexmaculatus* (Fabricius,1781)

本州以南から東南アジアやアフガニスタン、ミクロネシアなどに分布する熱帯系の種である。愛知県では平地に広く生息している。当地域からは矢作町(大平1985)の記録がある。

#### 33. ハラグロオオテントウ

*Callicaria superba* (Mulsant,1853)

本州以南から台湾、中国大陸などに分布する種である。愛知県では奥三河山地から低山地にかけて生息しているが少ない。希に平地の河川敷などでも得られている。岡崎市からは鶴巣町(村田1981)、大平町・矢作川川原(大平1985)、岡崎市内(穂積1990)の記録がある。

#### 34. カメノコテントウ

*Aiolocaria hexaspilota* (Hope,1831)

体長8mmにもなる大型のテントウムシである。クルミハムシの卵や幼虫を捕食する。愛知県では河川を中心に広く分布しているが個体数は多くない。岡崎市からは本宮山(山崎1973・穂積1990・山崎1990)、本宮山蘭菊溪谷(山崎2008)の記録がある。

#### 35. キイロテントウ

*Illeis koebelei koebelei* Timberlake,1943

採集記録: lex., 八ッ木町, 28- V -2010; lex., 池金町, 18- VI -1994; lex., 本宮山山頂部, 6- VII -2010; lex., 雨山ダム, 13- V -2007. 本州以南に分布する暖地系の種である。ウドンコ病菌の天敵として知られており、愛知県の全域に生息する普通種である。岡崎市からは旧岡崎市各地 (大平1985)、扇子山 (穂積1990)、本宮山 (照井1989・山崎1990)、の記録がある。

### 36. シロホシテントウ

*Vibidis duodecimguttata* (Poda,1761) [図1, N]

採集記録: lex., 本宮山山頂部, 24- VI -2010. 旧北区に広く分布する種である。愛知県でも山地・低山地・平地を問わず普通にいる。岡崎市からは本宮山・閤苅溪谷 (照井1989)、本宮山 (山崎1990)、の記録がある。

マダラテントウムシ亜科 *Epilachinae*

### 37. ニジュウヤホシテントウ

*Epilachna vigintioctopunctata* (Fabricius,1775)

[図1, O]

採集記録: lex., 八ッ木町, 29- VIII -2011; lex., 上衣文町, 13- V -1979; lex., 本宮山, 1- VI -1978; lex., 雨山ダム, 8- V -2005. 本州以南から熱帯地方やオセアニアまで広く分布する食植性の種で、ジャガイモ・ワルナスビなどを加害する。愛知県では広く生息しているが平地に多く見られる。岡崎市からは上地町 (大平1985) の記録がある。

### 38. ルイヨウマダラテントウ

*Epilachna yasutomii* (katakura,1981) [図1, P]

北海道南部と本州の限られた地域に分布する食植性の種である。ルイヨウボタンやトチバニンジンにいます。古い記録ではヤマトアザミテントウとして記録されていたものである。愛知県では奥三河山地一帯に広く生息しているが、スポイト状でどこにでもいるものではない。岡崎市からは閤苅溪谷 (照井1989・穂積1990・山崎2008) の記録がある。

### 岡崎市のテントウムシ相の概観

これまでに、岡崎市のテントウムシ科は38種が記録されたことになる。当地域において本宮山

系のみで得られているものとしては、シロトホシテントウ・シロジュウシホシテントウ・ジュウロクホシテントウ・ウンモンテントウ・シロホシテントウ・ルイヨウマダラテントウなどがあげられる。これらは主に寒地系の種で、奥三河山岳方面から本宮山あたりにかけて生息しているものである。コカメノコテントウ・シロトホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウは、まだ岡崎市からは見出されていないが、今後に得られる可能性の高いものと言えよう。外来種については、最近三河地方で分布を広げているミスジキイロテントウがあるが、これについては矢作川の河川敷で記録されている。しかし、三河地方の各地で得られているベダリアテントウやクモガタテントウについては、今後に見出される可能性の高い種であるが、これまでの調査では見出すことができなかった。河川敷や湿潤地に生息するオシマヒメテントウ・チュウジョウヒメテントウ・カバイロヒメテントウ・ババヒメテントウなどは今回記録しているが、こうした場所での調査が進展すれば、ハレヤヒメテントウ・セスジヒメテントウ・クロスジチャイロテントウ・ムナグロチャイロテントウ・ジュウクホシテントウなど相当数が追加されるものと思われる。そのほかにも当然得られてもよさそうな暖地性のアマダテントウ・アカイロテントウ・トホシテントウなども今後に見出されるべき種と言えよう。今のところ岡崎市において今回までに確認したテントウムシ科は全生息種の断片的なものであると思われるが、当地域におけるテントウムシ相の概要は若干ではあるがつかむことができた。これを契機に、テントウムシ科甲虫への関心が高まるきっかけになるならば幸いである。

### 参考文献

1. 穂積俊文 (1985) 1985年初夏, 三河本宮山の昆虫. 三河の昆虫, (32): 182-184.
2. 穂積俊文 (1990) 愛知県の甲虫類 (II). 愛知県の昆虫 (上): 434-460.
3. 環境庁編 (1995) 日本野生生物目録. 財団法人自然環境研究センター.
4. 神谷一男 (1955) 奥三河の昆虫相. 北設山岳及鳳来寺

- 山県立公園一帯の自然科学：33-70.
5. 村田文彦 (1981) 岡崎市でハラグロオオテントウを採集. 三河の昆虫, (28) : 121.
  6. 日本環境動物昆虫学会・生物保護とアセスメント手法研究部会 (1955) テントウムシの調べ方. 148pp. (株) 文教出版.
  7. 西川 誠 (1981) ムツキボシテントウを岡崎市で採集. 三河の昆虫, (28) : 122.
  8. 大平仁夫 (1985) 岡崎市の昆虫類. 岡崎市史・自然 : 1024-1096. 岡崎市.
  9. 佐々治寛之 (1998) テントウムシの自然史. 251pp. 東京大学出版会.
  10. 高崎保郎 (2004) 愛知県岡崎市でミスジキイロテントウを採集. 佳香蝶, 56 (218) : 31.
  11. 鳥居 彰 (1979) 本宮山採集会. 三河の昆虫, (24) : 97.
  12. 照井正康 (1989) 本宮山およびその周辺のテントウムシ. 三河の昆虫, (36) : 265-267.
  13. 山崎隆弘 (1973) 三河地方で採集した珍しい甲虫. 三河の昆虫, (3) : 9-11.
  14. 山崎隆弘 (1978) 三河地方で採集した珍しい甲虫 (その3). 三河の昆虫, (21) : 81-83.
  15. 山崎隆弘 (1990) 三河地方に産するテントウムシ類. 虫譜, 28 (2) : 12 - 18.
  16. 山崎隆弘 (2008) 本宮山のテントウムを探る. 三河本宮山昆虫誌 : 30-34. 三河昆虫研究会.

## ヒゴトゲハムシを岡崎市で採集

城 殿 浩

ヒゴトゲハムシ *Dactylispa hignoniae* は、愛知県では山崎 (2011) によれば、豊田市や新城市作手地域で記録されている。本種の寄生植物のムラサキシキブは三河地方に多く自生しているが、本種の記録は少ない。筆者は岡崎市で本種をムラサキシキブの葉上で採集したので報告する。

標本：愛知県岡崎市桑原町, 1ex., 22-V-2011, 城殿採集。

### 引用文献

- 山崎隆弘 (2009). 三河の昆虫, (56): 682-692.  
 -----(2011). 同上, (58): 735-736.  
 吉鶴靖則 (2010). 同上, (57): 721-723.

## サシゲチビタマムシを豊川市で採集

城 殿 浩

愛知県では記録の少ないサシゲチビタマムシ *Trachys robusta* を愛知県豊川市御津町広石御津山でシイをスウィーピングして採集できたのでここに報告する。

標本：豊川市御津町広石御津山, 1ex., 31-VII-2011, 城殿採集。

### 参考文献

- 城殿浩 (2006) 三河の昆虫, (53): 616.  
 蟹江昇ほか (2008), 佳香蝶, (60): 207-230.

# 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告 (その4)

吉鶴 靖則・川田 奈穂子・小出 恭章

筆者は豊田市自然観察の森とその周辺地域の調査を担当しているレンジャーである。自然観察の森内と矢並湿地は基本的に採集禁止でデータが乏しくなりかねないため、豊田市自然環境基礎調査報告書で記録が少ない種類などについて報告し、当地区の昆虫相の一資料とする。

なお、採集地はすべて愛知県豊田市であるため県名と市名を省略した。採集者、撮影者が吉鶴の場合には記述を省略し、その他は明記したが、いずれも自然観察の森の関係者によるものである。標本は豊田市自然観察の森に保管している。採集以外による確認行為はその旨を記した。

一部の種類の同定とさまざまな助言をいただいた吉田雅澄氏(トンボ目)、旭和也氏(ゴキブリ目)、矢崎充彦氏(バッタ目・カメムシ目)、戸田尚希氏(オサムシ科)、過去の自然観察の森のトンボ相についてご教示いただいた鶴殿清文氏、写真を提供いただいた穴吹允氏に厚くお礼申し上げます。

## トンボ目 Odonata

ムカシヤンマ科 Petaluridae

ムカシヤンマ

*Tanypteryx pryeri* (Selys)

東山町四丁目, 11-V-2010, 1 ♀ (撮影)

近年、当地では記録されなかった種類である。鶴殿氏によると、かつて普通に見られたようであり、自然観察の森に当時の写真が幾つか所蔵されている。

ヤンマ科 Aeshnidae

ミルンヤンマ

*Planaeschna milnei* (Selys)

東山町四丁目, 6-X-2010, 1 ♀ (撮影)

同所で12日には産卵も観察、撮影できた。2011年も同所で雌雄が確認されている。

サナエトンボ科 Gomphidae

メガネサナエ

*Stylurus ocellatus* (Asahina)

古瀬間町大日影, 18-VIII-2010, 1 ♀ (撮影)

エゾトンボ科 Cordulidae

エゾトンボ (図1)

*Somatochlora viridiaenea* (Uhler)

東山町四丁目, 16-VII-2011, 1 ♀ (捕獲: 加藤実, 撮影: 川田)

旧豊田市では隣接する市木町での記録がある(山本, 1993)。産卵中の個体が捕獲され、証拠写真を撮影後は現地で放した。

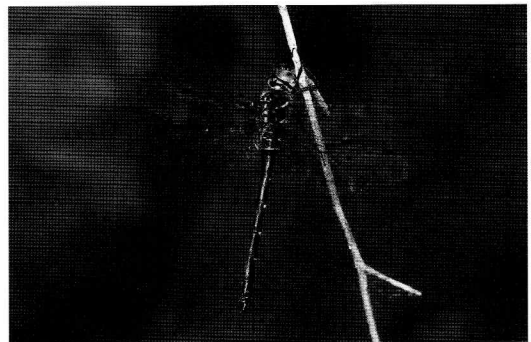


図1. エゾトンボ

## バッタ目 Orthoptera

ツユムシ科 Phaneropteridae

ヤマクダマキモドキ

*Holochlora longifissa* Matsumura et Shiraki

東山町七丁目, 3-IX-2010, 1 ♂ (小出)

コオロギ科 Gryllidae

モリオカメコオロギ

*Loxoblemmus sylvestris* Matsuura

京ヶ峰三丁目, 3-X-2010, 1 ♂ (小出)

マツムシ科 Eneopteridae

クマコオロギ

*Modicogryllus minor* Shiraki

市木町南山, 4-IX-2010, 1 ♂ (小出)

ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

ウスグモズ

*Metiochodes genji* (Furukawa)

東山町四丁目, 8-VIII-2010, 長翅型 1 ♀ (小出); 東山町四丁目, 18-VIII-2010, 長翅型 1 ♂, 短翅型 1

♂ (小出): 東山町四丁目, 10-VIII-2010, 短翅型 1  
♂, 短翅型 1 ♀ (小出)

#### ハサミムシ目 DERMAPTERA

クギヌキハサミムシ科 Forficulidae

エゾハサミムシ

*Eparchus yezoensis* (Matsumura et Shiraki)

東山町四丁目, 2-IV-2010, 1ex. (小出)

#### ゴキブリ目 BLATTODEA

ヒメクロゴキブリ科 Chorisoneuridae

ヒメクロゴキブリ

*Chorisoneura nigra* Shiraki

東山町四丁目, 17-VI-2011, 1ex.

#### カメムシ目 HEMIPTERA

ハネナガウンカ科 Derbidae

アカハネナガウンカ

*Diostrombus politus* Uhler

市木町南山, 17-VIII-2010, 1ex.

同日、オギの葉裏で少なくとも 5exs. 目撃した。

2011 年も継続して発生した。

アヤヘリハネナガウンカ (図 2)

*Nomuraida hibarensis* Matsumura

京ヶ峰二丁目, 28-VII-2010, 1ex. (中尾文香)

タラノキの葉裏にいたものが採集されている。

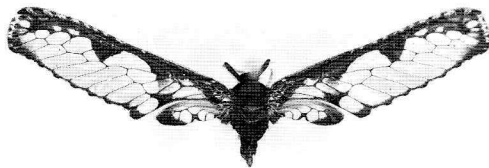


図 2. アヤヘリハネナガウンカ

シリアアカハネナガウンカ

*Zoraida horishana* Matsumura

京ヶ峰三丁目, 6-VIII-2010, 1ex.

2009 年 (吉鶴ほか, 2010) に引き続き確認した。

2009 年はリョウブの葉裏で、2010 年は種不明樹

木の葉裏に静止中のものを観察し、採集した。

ハネナガウンカの仲間の不明種 (図 3)

*Zoraida* sp.

矢並町百伏, 11-VIII-2010, 1ex.

観察路の木製の階段上にいたものを採集した。

ハネナガウンカ類は多くの種類で記録が少ないが、調査地ではマエグロハネナガウンカも得られている (吉鶴ほか, 2010)。したがって、当地はハネナガウンカ類の生息環境や生態を考察する上で重要な地域と思われるため、不明種であるが資料の 1 つとして明示しておく。



図 3. *Zoraida* sp.

コガシラウンカ科 Achilidae

ナワコガシラウンカ

*Rhotala nawae* Matsumura

京ヶ峰三丁目, 10-VIII-2010, 1ex.

グンバイウンカ科 Tropicudichidae

タテスジグンバイウンカ

*Catullia vittata* Matsumura

市木町南山, 17-VIII-2010, 1ex.

ミドリグンバイウンカ

*Kallitaxila sinica* (Walker)

東山町四丁目, 26-IX-2010, 1ex.

県下での記録は少ないが、矢作川で得られている (矢崎, 2009)。

カメムシ科 Pentatomidae

ミナミアオカメムシ (図 4)

*Nezara viridula* Linnaeus

市木町豆入, 1-IX-2010, 1ex. (撮影)

南方系の種類で近年豊橋 (浅岡, 2006; 浅岡, 2007; 浅岡, 2008) や幡豆郡一色町 (浅岡, 2009)、名古屋 (矢崎, 2010) と記録が増えている。

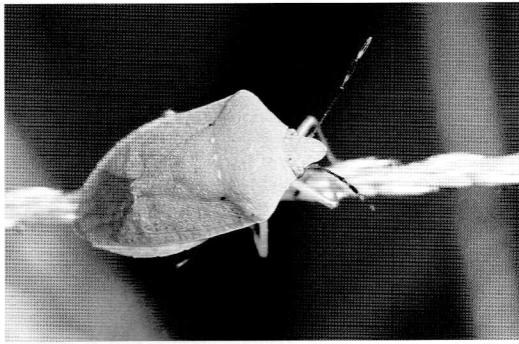


図4. ミナミアオカメムシ

ルリクチプトカメムシ

*Zicrona caerulea* (Linnaeus)

古瀬間町大日影, 23-VII-2010, 1ex. (撮影)

アメンボ科 Gerridae

トガリアメンボ

*Rhagadotarsus kraepelini* Breddin

京ヶ峰四丁目 (寺部池), 3-IX-2010, 多数 (撮影)  
分布拡大中の外来種で、2007年の発見 (矢崎・石田, 2008) 以降、当地では定着した感がある。

アミメカゲロウ目 NEUROPTERA

カマキリモドキ科 Mantispidae

ヒメカマキリモドキ

*Mantispa japonica* MacLachlan

東山町四丁目, 11-VII-2010, 1ex. (小出)

コウチュウ目 COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

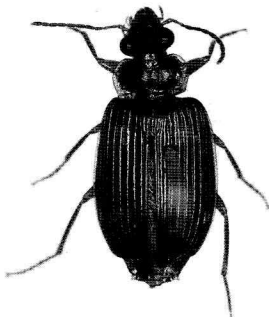


図5. ヒメキノコゴミムシ

ヒメキノコゴミムシ (図5)

*Coptoderina osakana* (Nakane, Ohkura et S. Uéno)

京ヶ峰二丁目, 25-VII-2010, 1ex.

全国的に記録が少ないといわれるが、矢作川上流～中流域などで記録が散見される (蟹江ほか, 2009)。

エンマムシ科 Histeridae

オオヒラタエンマムシ

*Hololepta amurensis* Reitter

市木町南山, 4-VIII-2011, 1ex. (死体回収: 川田)

コガネムシ科 Scarabaeidae

クロカナブン

*Rhomborrhina polita* Waterhouse

東山町四丁目, 4-VIII-2010, 1ex.

2010年は本種とアオカナブンが例年より非常に多く見られた年であった。

タムムシ科 Buprestidae

クロホシタムムシ

*Ovalisia virgata* (Motschulsky)

東山町四丁目, 22-VI-2010, 1ex. (中尾文香)

ホタル科 Lampyridae

ムネクリイロボタル

*Cyphonocerus ruficollis* Kiesenwetter

市木町南山, 11-VI-2010, 1ex.

オオキノコムシ科 Erotylidae

マエグロチビオオキノコ

*Tritoma centralis* (Lewis)

市木町南山, 9-VI-2010, 4exs.

ナガクチキムシ科 Melandryidae

オオクロホソナガクチキ

*Phloeotrya bellicosa* Lewis

矢並町百伏, 25-VI-2010, 1ex.

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

モンキゴミムシダマシ

*Diaperis lewisi* Bates

市木町南山, 1-VII-2010, 2exs.; 京ヶ峰三丁目, 16-VII-2011, 4exs.

カミキリムシ科 Cerambycidae

ニセビロウドカミキリ

*Acalolepta sejuncta* (Bates)

市木町南山, 9-VI-2010, 1♂

ハムシ科 Chrysomelidae

ヨツボシナガツツハムシ



*Clytra arida* Weise

東山町四丁目,6-VI-2010,1ex. (小出)

ゾウムシ科 Chrculionidae

オリーブアナアキゾウムシ

*Pimelocerus perforatus* (Roelofs)

市木町南山,9-VI-2010,1ex.

### チョウ目 LEPIDOPTERA

シジミチョウ科 Lycaenidae

ムラサキツバメ (図6)

*Narathura bazalus* (Hewitson)

東山町四丁目,1-IX-2010,1ex. (撮影:川田)

当地での初記録である。自然観察の森の外側に面する道路の街路樹で2011年も継続して発生している。



図6. ムラサキツバメ

ウラミスジシジミ (図7)

*Wagimo signatus* (Butler)

東山町四丁目,21-VII-2010,1ex. (撮影:穴吹允);

京ヶ峰三丁目,6-VIII-2010,1ex. (撮影)

旧豊田市の記録は広瀬 (陸, 2003)、広幡町 (大鐘, 2005) 等、少ない。

ジャノメチョウ科 Satyridae

ウラナミジャノメ (図8)

*Ypthima motshulskyi nipponica* Murayama

古瀬間町大日影,25-VI-2010,1ex. (目撃); 矢並町百伏 (矢並湿地),26-VI-2010,1ex. (撮影:小出)

矢並湿地は環境省の日本の重要湿地500に豊田市周辺中間湿原群として選定されている。この選定理由は湿原植生だが、湿原群の他の湿地はウラナミジャノメの生息を理由に選定されている。今回の発見は昆虫類でも選定され得たことを示し、

湿地の重要性を補強するものとなった。

矢並湿地は東西2つの湿地に分かれているが、東湿地で吉鶴・小出が確認した他、西湿地でも吉鶴が本種と思われる個体を目撃している。

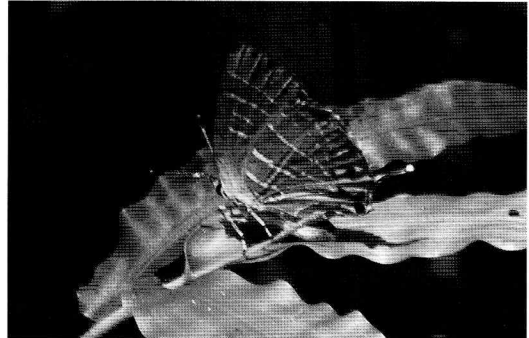


図7. ウラミスジシジミ (撮影:穴吹允)

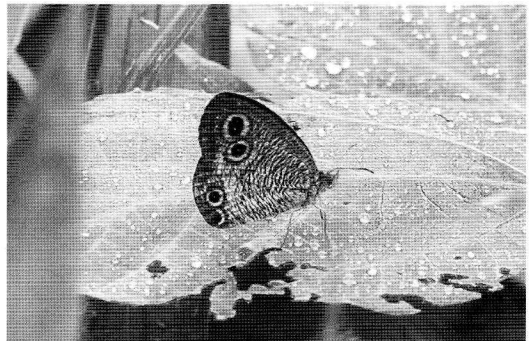


図8. ウラナミジャノメ

### ハチ目 HYMENOPTERA

スズメバチ科 Vespidae

ムモンホソアシナガバチ

*Parapolybia indica indica* (Saussure)

市木町南山,20-VIII-2010,3exs. (小出)

チャイロスズメバチ (図9)

*Vespa dybowskii* Andre

東山町四丁目,27-V-2011,1♀

ハキリバチ科 Megachilidae

ハラアカヤドリハキリバチ

*Euasps basal* (Ritsema)

東山町四丁目,22-VIII-2010,1ex. (中尾文香); 東山町四丁目,29-VIII-2010,1ex.

かつてハラアカハキリバチヤドリと呼ばれていた種類である。

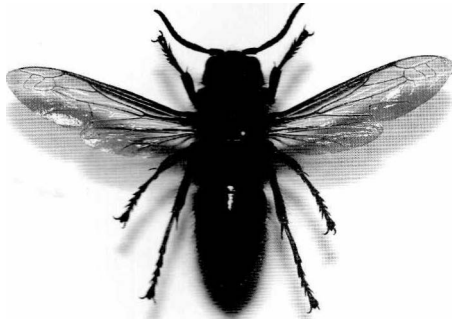


図9. チャイロスズメバチ

コシブトハナバチ科 Anthophoridae

ルリモンハナバチ

*Thyreus decorus* (Smith)

東山町四丁目, 31-VIII-2011.1ex. (中尾文香)

ミツバチ科 Apidae

オオマルハナバチ (図10)

*Bombus hypocrita hypocrita* Perez

市木町赤根, 1-V-2010.1 ♀ (撮影); 市木町赤根

.5-V-2010.1 ♀ (加藤実)

マルハナバチ・ハンドブックでは愛知県は分布域に入っていない(鷺谷ほか, 1997)が、豊田市では六所山(豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会, 1978; 小嶋ほか, 1979)で報告されている。2011年には当地で複数目撃したほか、6月14日には近隣の琴平町三山口でも確認したので、豊田市高橋地区では定着していると思われる。



図10. オオマルハナバチ

### 参考文献

浅岡孝知 (2006) 三河港(豊橋地区)でのカメムシ類2題. 虫譜. 44(2): 20  
 浅岡孝知 (2007) 豊橋市梅田川流域の昆虫. 虫譜. 45(2) 20.

浅岡孝知 (2008) 三河港造成地のカメムシ目. 三河の昆虫. (55): 667-673.  
 浅岡孝知 (2009) 三河湾・佐久島とその属島の昆虫の記録. 虫譜. 48(1): 43-45.  
 蟹江昇・戸田尚希・西村雄貴 (2009) 矢作川河畔林調査 - コウチュウ分布から見た河川数環境 -. 矢作川研究 (13): 81-90. 豊田市矢作川研究所.  
 小嶋 誠・寺村重一・岩月 学 (1979) 昆虫目録. 豊田の昆虫 I: 46-83. 豊田市教育委員会.  
 大鐘裕道 (2005) 豊田市でウラミスジジミを採集. 佳香蝶. 57(223): 54.  
 陸 雄一 (2003) ウラミスジジミをクモの巣から採集. 佳香蝶. 55(215): 60.  
 豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会 (1978) [追記] 六所山の昆虫. 豊田市史 6 卷(資料) 自然・原始・古代・中世: 194-215.  
 山本悠紀夫 (1993) 愛知県豊田市から藤岡町にかけての丘陵地に分布するトンボ. 佳香蝶. 45(174): 17-29.  
 矢崎充彦 (2010) 名古屋市で得られた分布上特記すべき半翅類. 佳香蝶. 62(243): 51-55.  
 矢崎充彦・石田和男 (2008) 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶. 60(234): 165-200.  
 吉鶴靖則・川田奈穂子・小出恭章 (2010) 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その3). 三河の昆虫. (57): 721-723.  
 鷺谷いづみ・鈴木和雄・加藤真・小野正人 (1997) オオマルハナバチ. マルハナバチ・ハンドブック - 野山の花とのパートナーシップを知るために - : 30-31. 文一総合出版.

# 矢作川水系におけるクロサワドロムシの記録

市川 靖 浩

クロサワドロムシ *Neoriohlmis kurosawai* Nomura は愛知県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に選定されているヒメドロムシ科の水生甲虫である。矢作川水系におけるヒメドロムシ類は、吉富らによって採集記録と過去の文献記録がまとめられており、この報告によるとクロサワドロムシは関東地方～東北地方南部、新潟県では採集記録が比較的多いが、中部地方では生息数が少ないという (吉富ほか, 1999)。

筆者は平成23年3月から10月までに矢作川水系の103地点において約1,600頭 of ヒメドロムシ類を採集した。このうち本種の採集個体数はわずか3頭であり、この水系での希少性を示す結果となった。

今回は本水系で希少であるクロサワドロムシの採集地について分布記録として報告する。

## 《データ》

● 愛知県豊田市大野瀬町マルノ, 2-VII-2011, 1ex., 標高570m.

野入川の抽水植物の根際より採集した。河川の水量は豊富で流れの強い環境であった。

● 愛知県豊田市猿投町猿投山, 13-VIII-2011, 1ex., 標高440m.

広沢川源流部の細流に沈んだ流木にしがみついていた個体を採集した。

● 愛知県豊田市御内町大洞, 16-VII-2011, 1ex., 標高630m.

森林の中を流れる田之土里川で川底に沈んだ植物の根や枝葉がからみあった固まりから採集した。

矢作川水系の既知産地は、長野県下伊那郡根羽村大代 (吉富ほか, 1999)、岐阜県恵那市上矢作町小田子 (佐藤・成瀬, 1963) の記録がある。今

回報告した3地点の生息地は標高400m以上の比較的標高の高い河川や沢から確認した。本水系以外の既知産地は、庄内川水系赤津川 (吉富ほか, 1999) で一か所のみ確認されている。

本種の生息環境は河川の源流・上流部で抽水植物の根際や流木などであるが、これらの生息環境に着目し本種に特化した採集を試みれば、同様の環境で生息が確認できると思われる。

今後は、さらに本水系の分布域を明らかにすることはもとより、県内の他水系についても調査をすすめ、その生態を明らかにすることが望まれる。



(豊田市大野瀬町マルノ, 2-VII-2011, 1ex., 筆者採集・保管)

## 引用文献・参考文献

- 愛知県 (2009) レッドデータブックあいち・動物編・2009・297pp  
 佐藤正孝・成瀬善一郎 (1963) 矢作川流域の水生甲虫類。矢作川の自然, 163-172  
 吉富博之・白金晶子・疋田直之 (1999) 矢作川水系のヒメドロムシ。矢作川研究, (3): 95-116

# 岡崎市檜山町の「おおだの森」のカメムシ類などの記録

浅岡孝知

三河昆虫研究会では、年4回採集会を実施している。毎年趣向を凝らした企画がされている。時間の都合で4月29日の時に参加したので、若干であるが、カメムシ類などについて報告する。

旧額田町地内についてはこれまであまりまとめられた報告例はなく、岡崎市に合併したことでこれからまとめられる機会は消失するように思われる。そういう意味でも、今回のスポット的であるが基礎資料となれば幸いである。調査した額田支所とおおだの森について述べることにする。調査日は平成23年4月29日(日)である。

採集会の企画や当日の案内など労を取られた山崎隆弘氏に感謝申し上げる。

## 1 額田支所

会員の集合時間まで、旧額田町役場周辺の灌木を調べてみたところ、次のような種が見いだされた。

- 1) ムネアカアワフキ *Hindoloides bipunctatus* (Haupt,1923).2exs.
- 2) ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea* (Fabricius,1787).lex.
- 3) クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida* Lethierry,1876.lex.
- 4) トサカグンバイ *Stephanitis takeyai* Drake et Maa,1953.lex.
- 5) コバネナガカメムシ *Dimorphopterus pallipes* (Distant,1883).lex.

なお、敷地内の一角に森の駅があり、大平仁夫会長、山崎隆弘副会長らが夏季に昆虫展を開催している。

## 2 おおだの森

額田支所の駐車場から見える位置にあるのがおおだの森である。標高は262mであり、山頂には展望台やアスレチックなどがあり、春には桜が満開となり訪れるにはよいところである。展望台での旧車道を調べてみたところ、僅か次の種が見いだされただけである。

- 1) シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis* (Stal,1861).2exs.

カメムシ類に比べて、コウチュウ類はカエデやサクラなどの花に多数飛来してきている。アカハラクロコメツキ *Ampedus hypogastricus* など5種のコメツキムシ類、ミヤマルリハナカミキリ *Anoploclera azumensis* など6種のカミキリムシ類、クロボシツツハムシ *Cryptocephalus signaticeps* など4種のハムシ類、ズピロキマリモドキ *Gnesis helopioides*、ヒメアカホシテントウ *Chilocorus kuwanae* など平地に見られる種が一通り見いだされる。山頂の広い広場では、ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* やルリタテハ *Kaniska canace* などが確認できた。



図1. おおだの森山頂部—額田支所から

余談であるが、本道から脇道の遊歩道で下山し、ところ、イノシシなどのけもの道にも利用されているらしくマダニの幼虫が路傍の草木に待ちかまえていて被害を被ってしまった。数十匹がズボンに付いていた。久しぶりのことであった。

# 岡崎市檜山町「おおだの森」のコメツキムシ類の記録

大平 仁 夫

岡崎市檜山町の額田支所の近くにある「おおだの森」は標高262mの低山で、麓の鬼沢八幡宮から山頂まで1,500mの山道がある。山頂には展望台や交流館（コテージ）などもあり、山頂から檜山町や東に三河本宮山の山並みが一望できる景勝地であるので、身近なハイキングコースとしても知られている。

筆者は、この森のコメツキムシ類を2011年に調べる機会があり、分布上興味ある種が若干見出されたので記録する。なお、ここでは額田地域との分布も比較したが、三河本宮山と闇荊溪谷は、山の規模や植生が相違するので、この山との比較からは除外した。なお、ここに記録した種の採集者は大平本人である。

## 種の記録

1. *Limoniex eximus* (Lewis, 1894)  
ムラサキヒメカネコメツキ (図, B)  
標本: 1 ♂, 25.V.2011.  
額田地域からは、大平 (2008) が保久を記録している。図は体長 6.5mm (雌)。
2. *Cidnopus marginicollis* (Lewis, 1894)  
ウスチャイロコメツキ  
標本: 2 ♂♂, 5.V.2011; 3 ♀♀, 30.V.2011.  
里山に春に現れる種である。額田地域からはこれが最初の記録である。
3. *Limonicus vittatus* (Lewis, 1873)  
タテスジカネコメツキ  
標本: 1 ♀, 30.IV.2011.  
額田地域からは大平 (2008) が切山を記録している。
4. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus* (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ  
標本: 1 ♂ 1 ♀, 25.V.2011.  
額田地域からは、大平 (2008) が、淡淵、鳥川、夏山を記録している。
5. *Actenicerus aerosus aerosus* (Lewis, 1879)  
ヘリアカシモフリコメツキ  
標本: 1 ♀, 25.V.2011.  
額田地域からは大平 (2008) が切山を記録している。
6. *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)  
ドウガネヒラタコメツキ  
標本: 1 ♂, 30.IV.2011.  
山地性の種で、額田地域では農耕地周辺でも分布録しているが、これは三河本宮山系の影響と思われる。
7. *Selatosomus (Eanooides) puerilis* (Candèze, 1873)  
シリプトヒラタコメツキ  
標本: 2 ♀♀, 30.IV.2011.  
額田地域からは大平 (2006) が雨山を記録している。
8. *Neopristilophus serrifer serrifer* (Candèze, 1873)  
アカヒゲヒラタコメツキ  
標本: 2 ♂♂, 5.V.2011.  
額田地域からは大平 (2008) が保久を記録している。
9. *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ  
標本: 2 ♂♂ 1 ♀, 30. IV.2011; 1 ♂ 3 ♀♀, 15-VI.2011.  
松林のある里山の種で、額田地域からは大平 (2008) が保久、鍛埜、粟淵、鳥川を記録している。
10. *Ampedus (Ampedus) masatakai* Ôhira, 2000  
マサタカアカコメツキ (図, C)  
標本: 1 ♀, 5.V.2011.  
岡崎市池金町産の個体で新種として筆者が記載した種で、額田地域では最初の記録である。体長は 10mm 内外、黒色で上翅は赤褐色、触角は黒褐色で肢は暗褐色である。図は体長 10.5mm の雌。
11. *Ampedus (Miwaelater) carubunculus* (Lewis, 1879)  
ヒメクロコメツキ  
標本: 1 ♀, 15.VI.2011.  
春にカエデや栗などの花上で見られ、額田地域からは大平 (2008) が淡淵を記録している。
12. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)

キバネホソコメツキ

標本：2♂♂, 30.IV.2011.

里山に分布する種で、額田地域からは大平(2008)が切山, 雨山, 夏山, 鍛埜を記録している。

13. *Vuilletus viridis subopacus* Nakane, 1959

コミドリヒメコメツキ (図, D)

標本：1♀, 30.IV.2011.

各地に広く分布していた種であるが、現在ではきわめて希で、額田地域からはこれが最初の記録と思われる。図は体長6.5mmの雄。

14. *Ectinus (Ectinooides) insignitus insignitus*

(Lewis, 1894) ヨツキボシコメツキ

標本：1♀, 30.IV.2011.

額田地域からは大平(2008)が雨山を記録している。

15. *Melanotus (Melanotus) correctus correctus*

Candèze, 1865 ヒラタクロコメツキ

標本：1♂, 30.IV.2011; 1♂2♀♀, 15.V.2011.

額田地域からは大平(2008)が鳥川, 雨山, 鍛埜を記録している。

16. *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete*

Candèze, 1860 アカアシオオクシコメツキ

標本：1♀, 15.V.2011; 1♂, 15.VI.2011.

普通種で、額田地域からは大平(2008)が切山, 鳥川, 淡湖, 鍛埜を記録している。

17. *Melanotus (Spheniscosomus) koikei*

(Kishii et Ôhira) ヒラタクシコメツキ

標本：1♂1♀, 15.V.2011; 2♂♂2♀♀, 15.VI.2011.

山林性の種で、額田地域からは大平(2008)が雨山を記録している。

18. *Glyphonyx bicolor bicolor* (Candèze, 1893)

キバネクチボソコメツキ

標本：1♀, 15.VI.2011.

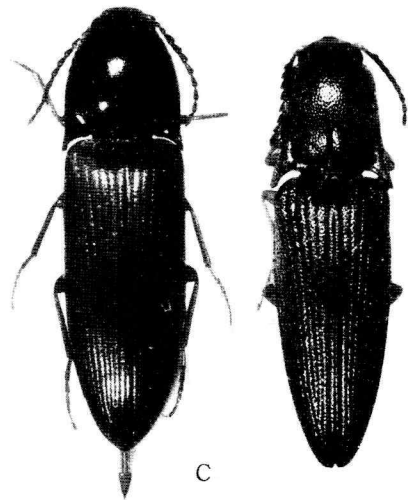
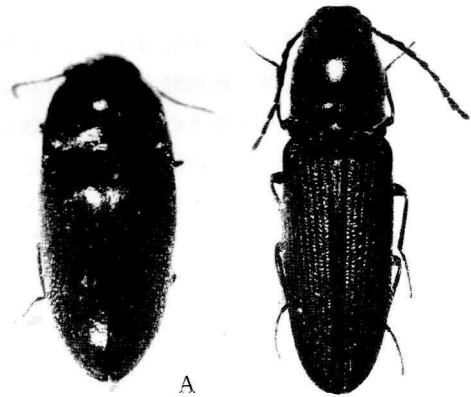
各地に分布するが個体数は多くない。この地域からはこれが最初の記録と思われる。

19. *Quasimus kytotoensis* Kishii, 1966

キョウトチビコメツキ (図, A)

標本：10exs., 30.IV.2011; 19exs., 5.V.2011.

京都から新種として記載された体長1.5~2mmで黒色をした小形種である。この地域では、大平



(1985)が岡崎市(詳しい産地名は不明)から鈴木栄二氏が採集(24.V.1959)の1個体の記録があるのみである。この「おおだの森」に分布することを最初に見出したのは、採集巧者の山崎隆弘氏である。額田地域からはこれが最初の記録である。

20. *Yukoana carinicornis* (Lewis, 1894)

ヘリムネマメコメツキ

標本：1♂1♀, 5.V.2011; 1♀, 25.V.2011.

体長は2~2.5mm内外で、前種より大形でより細長い。ここでは個体数は多くないが、山道沿いで見られる。額田地域からはこれが最初の記録である。

21. *Cardiophorus pinguis* Lewis, 1894

クロハナコメツキ

標本：1♂1♀, 30.IV.2011.

各地の雑木林に分布する種である。額田地域ではこれが最初の記録である。

## あとがき

前述のように、この「おおだの森」は、山麓の一部の植林地を除いて、広葉雑木林で覆われており、調査が進めばさらに多くの種が見出されると思われる。ここでは21種を記録したが、この内の2, 5, 12, 18, 19, 20の6種は額田地域から未記録の種であったが、本宮山と閼苅溪谷を含む地域を加えると、12, 19の2種だけになる。

ここに記録した4月30日の研究会の合同調査資料は、同行して支援をいただいた山崎隆弘氏と浅岡孝知氏の採集個体も含まれているが、採集しながら個体の授受をしていたので、どなたの採集品か識別ができなくなったので、全て筆者の採集品として記録した。

## 引用文献

大平仁夫(1985) 岡崎市の動物-コメツキムシ科-。岡崎市史・自然14: 1058-1065.

.....(2006) 三河地方から採集されるコメツキムシについて(24)。三河の昆虫, (53):630-632.

Ohira, H.(2007) New or Little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan. L. Elytra. Tokyo, 35(1): 108-110.

.....(2008) 岡崎市額田地域のコメツキムシの記録。三河の昆虫, (55): 674-675.

## 愛知県東海市で5月にイチモンジセセリの生蛹を確認

大 曾 根 剛

イチモンジセセリ *Parnara guttata* は農業害虫であり、農業試験場等の記録では、越冬可能な場所は福島県以南の太平洋岸の地域とされている。愛知県内の本種は、気候の温暖な沿岸部を除いた内陸部では、第1化(第1世代)の成虫が5月中旬から6月上旬にかけて局地的にわずかに見られる年があるかないかの状況であり、しかもこれが県内で発生した個体なのか飛来個体かは不明で、実際に野外の自然状態で越冬態が観察された例は少ない。

筆者は2011年5月15日、愛知県東海市名和町前郷の自宅にて、植木鉢に植栽したショウジョウスケの根際よりイチモンジセセリの越冬巣を発見し、巢中より生蛹を確認した。

この植木鉢は前年秋に自宅の北側の直接陽の当たらない風通しの良い場所に置いてあり、同じく隣接して置いてあったミヤマクロスゲの植木鉢の植栽にはイチモンジセセリの著しい食害が見出されたが、やがてそれも枯れて同時に幼虫も死滅したと思い込んで、春先までそのままに放置しておいた。4月になってショウジョウスケの新葉が新たに伸張したため、そこに南アルプス産のベニヒカゲを袋掛けして飼育を始めたが、その観察中に



ショウジョウスケ根際のイチモンジセセリの越冬巣(破線部)発見したものである。おそらく、ミヤマクロスゲを食した幼虫がショウジョウスケの植木鉢に移動し、幼虫で無事に越冬し、春先にそのまま蛹化したものと思われる。

蛹は巢中に地面とほぼ平行な状態で横たっており、巢の吐糸は地表面の枯葉間に強固に入念に行われていた。なお、成虫は5月19日に1♀が羽化した。

気象庁東海観測所の記録では、2011年1~3月の日の平均気温は3.6~7.8℃で、過去10年間の同時期の気温の比較で本年が最も低かった。



# ヤナギハムシ雑記

岩 月 学

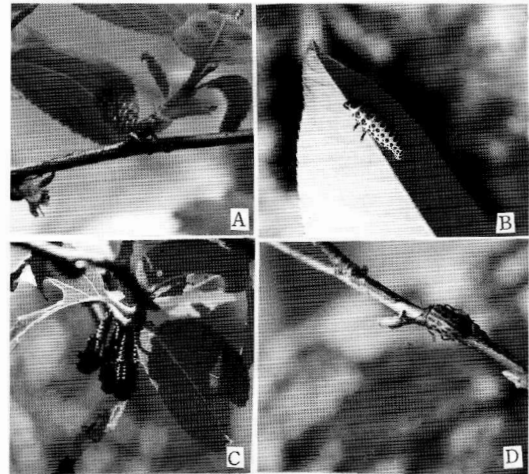
筆者とヤナギハムシ *Chrysomela nigripunctata* (Scoti) との出会いは30年も前であるが、山地性の種と思い無関心であった。それが、7年ほど前から再び関わりができた。その中の若干の記録を、古くなっているが報告しておくことにした。

本種はハムシ亜科の種で、体長は8mm内外でやや扁平状を呈し、緑藍色で光沢を有し、前胸背の両側は黄色、上翅はやや白色がかかった黄土色で、緑藍色の会合線と各上翅に10個の黒斑紋を有し、成虫・幼虫ともにヤナギを食餌とする種である。

## 1. 豊田市とその周辺地域での観察

- (1) 猿投山, 27-V-1978, 御紋岩付近, 30-IV-1984: 血洗いの滝, 30-VI-1984 にいずれも成虫で10数頭から20数頭を確認。
- (2) 矢作川, 8-VI-2006; 西広瀬町, 7-IX-2003, 成虫や羽化殻を確認; 百月町, 1-IX-2003 を確認。その他に豊田矢作川研究所の記録に、越戸ダム, 扶桑町, 西広瀬町などがある。
- (3) 岡崎市にも生息確認  
岡崎市八ツ木町の岡崎自然体験の森で、アカメヤナギ群落で確認した。三河地方では、東三河山地の記録だけであったので驚いた。以降 15-V-2006(成虫 4), 23-III-2007(成虫 1), 26-III-2008(成虫 2) を確認しており、現在も若干個体が生息している。
- (4) 平地での生息確認  
豊田市渡刈町の矢作川の中州のシダレヤナギの太木で 5-V-2008 に成虫 1, 幼虫 12, 羽化殻 15 以上を確認し、矢作川下流域(平地)にも生息することが確認でき、敵部東町での成虫 1 の採集(2007)も納得できた。
- (5) 生態など

- A: 体色と上翅の斑紋: 目立つ反面、ヤナギの枝に溶け込み、成虫を見失うことがあった。  
B: 出現期は、20-III-2006(図 D), 23-III-2007, 26-III-2008(成虫); 13-IV-2008(懸垂前の幼



A. 卵 (13-IV-2000); B. 幼虫 (29-IV-2007)  
C. 蛹 (8-V-2007); D. 成虫 (20-III-2006) .

虫と早い。

- C: 卵は薄青色で細長い。32, 28 個内外の卵塊で、葉裏に産卵される。  
D: 孵化後の幼虫は葉裏にいて、次第に分散する。3 令を経過して成虫になる。  
E: 蛹化は葉裏に尾端に殻を付着して懸垂状態になる。黒色で細長い。静止状態ののち 7 日間ほどで成虫になった(図 C)。  
F: 4 月 4 日に見た卵は、28 日には羽化しており、生育期間は短いようである。  
G: 生息場所の条件。岡崎市自然体験の森の駐車場の外や付近の農地跡にもアカメヤナギの若木が 10 本あまりあったが、本種は見られなかった。豊田市の生育地は渡刈町以外は河川や溪流で、渡刈町も傍らを本流が流れている。本種は「水辺」にいるというホームページの文章を見たが、場所の涼しさも生息条件になるのかなと考えられる。

## 参考文献

- 蟹江 昇ほか(2009) 矢作川河畔林調査. 矢作川研究 (13):81-90.  
大平仁夫ほか(1990) 稲武町史-自然-資料編: コウチュウ目: 180-266.

(1996) 設楽町誌-自然編: 甲虫目: 449-551.  
 豊田昆虫友の会 (2000) 豊田の昆虫 II. 猿投山の昆虫 (1): 1-58.  
 田中 番ほか (2001) 昆虫確認種一覧表. 矢作川研究  
 (5):223-253

山崎隆弘 (1990) 愛知県のハムシ科. 愛知県の昆虫 (上):  
 434-460

## 岡崎市でムラサキツヤハナムグリを採集

鈴木 栄 一

ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia (Liocola) cataphracta* は愛知県では記録の少ない甲虫である。三河地方では豊根村、旧富山村、東栄町、豊橋市といった三河山間部の地域から記録され、山崎隆弘氏は旧作手村守義で本種を得ている。いずれも標高 500m 内外の地域が中心である。

筆者は岡崎市茅原沢町 (標高 40m) でバナナによる果実トラップにより採集したので記録する。

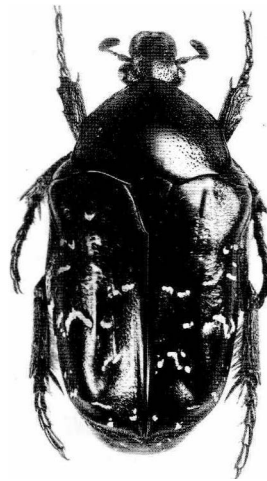
### 採集記録

岡崎市茅原沢町 1 ♀, 18- VI -2011  
 1 ♂ 1 ♀, 26- VI -2011  
 1 ♀, 02- VII -2011

### 引用文献

山崎隆弘 (2003) ムラサキツヤハナムグリ作手村で採集. 三河の昆虫 (50). P558

川井信矢ほか (2007) 日本産コガネムシ上科図説  
 第2巻 食葉群. I



## 岡崎市でミヤマサナエの羽化殻を確認

鈴木 栄 一

ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* は愛知県の大きな河川流域から知られ、三河地方では矢作川や豊川流域を中心に記録されている。

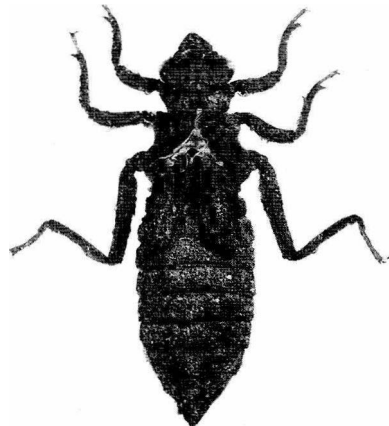
筆者は岡崎市須渕町で羽化殻を確認、採集したので記録する。

### 採集記録

岡崎市須渕町 1ex, 02- VII -2011

### 参考文献

愛知県 (1990) 愛知県の昆虫 (上)  
 豊田市 (2005) 豊田市自然環境基礎調査報告書



## 2011年度の採集会の概要と「しらびそ高原」採集記

伊藤 昭 博



しらびそ峠に到着した参加者ら



3,000の南アルプスの山並みを望む

2011年度も山崎副会長の積極的な会員の交流と昆虫調査を目的に4回の計画がなされた。4月28日は岡崎市のおおだの森で、大平、浅岡、判家、伊藤、山本、山崎の各氏6名が参加。5月8日は渥美半島赤羽根の尾村山で、水野、中根、伊藤、山崎の各氏4名が参加。5月15日は梶島であったが、渡船の都合により、幡豆の三ヶ根山と蒲郡市の御堂山さがらの森に変更した。大平、伊藤、山崎の3名が参加。

7月6日は「しらびそ高原」であった。今回はこれについて紹介したい。早朝の7時に、豊川市のぎよぎよランドに大平会長のほか、山崎、中根、水野の各氏と筆者の5人が集合し出発した。新城までは通勤時間帯のため渋滞気味であったが、その後は東栄町、新野千石平、遠山郷で休憩をしながら、しらびそ峠には11時に到着した。当初の予定していた7月4日は雨天で延期していたが、本日は晴天で峠からは南アルプスの雄大な山々が望められた。その後エコーラインを南へ進み、御池山登山口に11時30分に到着した。

この登山口の標高は1780m、御池山は1902m。登頂すれば大型の隕石クレーター跡が見られる。しかし、登山よりはまずは採集だ。ネットとカメラを持って飛び出した。「スジボソヤマキチョウがいるはずだ」と山崎氏の言葉に期待したが、その姿はなかった。

30分後に昼食を摂り。成果を持ち寄って話し合った。今年は季節が7日から10日程遅れているようで蝶の発生もずれているようだ。見られたのはテングチョウ、ヤマキマダラヒカゲ、モンキチョウなどであった。ヒョウモンチョウ類やタテハチョウ類はほとんど見られず、どこでも見られるジャンメチョウばかりであった。大平会長が「花が咲いてないと甲虫が採りづらい」と、山崎氏は「季節が遅れているので標高の低い下栗方面に下りながら採集しましょう」ということで、道中3ヶ所で下車しては徒歩で採集しながら進んだ。山崎氏は山地性のミドリカメノコハムシやメスグロベニコメツキなどを得たようだ。また、水野氏はオオセンチコガネを5頭も採集し、中根氏も1頭得たようだ。大平会長は、山地性のコメツキムシを若干得られたようでやれやれ。その後、日本のチロルと呼ばれている「下栗の里」の風景を眺めながら帰途についた。

成果は期待した割にはやや少なめであったが、2000m級の近い高原へ皆で出掛けて昆虫採集を十分堪能したので、よき思い出となった。すでに、「次回の採集会へと」夢を膨らませる一日にもなったようだ。

## ナミハナムグリを岡崎市小呂で採集

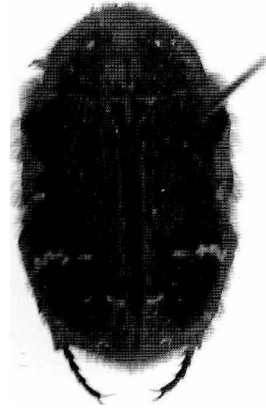
大平 仁 夫

ナミハナムグリ *Cetionia pilifera* は、各地の里山に広く分布する種であるが、松野(更)・松野(光)(1975)によれば、「各地の目録や図鑑では普通種になっているが、当地方の個体数は決して多くない」と記録されている。また山崎(2011)は、三河港ではトベラの花上では普通にいとされている。しかし大平(1985)は、岡崎市池金町と蓬生町から記録「市内では、希に見出される」としている。その後の記録は不明であるが、筆者は小呂町で花に飛来していた図示した1雌個体を見出したので記録する。

標本：1雌、岡崎市小呂町(小呂湿地内)、29.IV.2011、大平採集。

### 引用文献

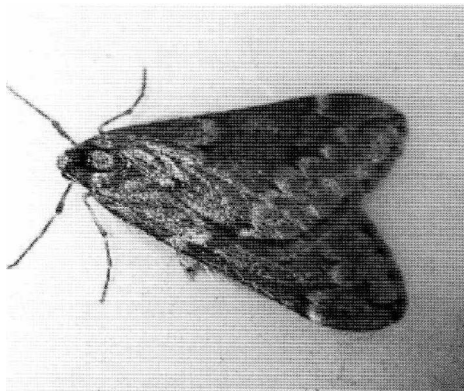
松野更一・松野光泰(1975) 東三河の食葉コガネムシ。三河の昆虫。(12・13):45-51。大平仁夫(1985) 新編岡崎市史(



自然)14 - 岡崎市の甲虫 - : 1024-1026。山崎(2011) 愛知県三河港埋立地で採集した食葉性コガネムシ。虫譜, 50(1): 23-26。

## 安城市今池町でシロオビフユシャク

小 鹿



安城市今池町産 シロオビフユシャク♂

勤務校の外灯に飛来していたシロオビフユシャク *Alsophila japonensis* (Warren, 1894) (シャクガ科) を元日の朝に見つけた。文献などによると、この仲間としては、もっとも普通の種のようなはあるが、周囲は高層マンションに囲まれて、緑の乏しい環境である。元日の朝の思わぬ来訪者にさい先のよい新年のスタートであった。

《データ》1-1-2012、シロオビフユシャク1♂

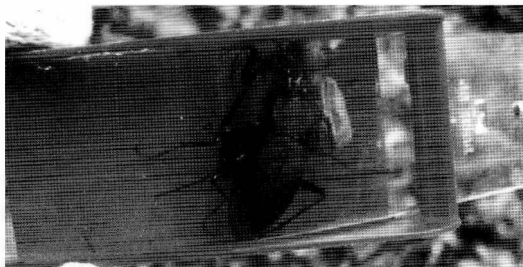
安城市今池町 安城市立今池小学校

# クロナガオサムシがパンチュートラップに来ること

小 鹿 亨

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus procerulus* (Chaudoir, 1862) は、愛知県内の山間部では普通に見られるオサムシで、プラスチックのコップなどを使用した通常のベイト・トラップによく入ってくる。

筆者は哺乳類の調査に同行する機会が多くあり、その際に使用されるいわゆるパンチャー・トラップと称されるネズミ類を捕獲する樹脂製のトラップに、本種がかかっている場面を目撃している。パンチャー・トラップでネズミ類の誘因物として使用しているのは、生ピーナッツで全くの植物性のエサである。肉食性の昆虫とばかり思っていたので、はじめは「偶然」と考えていた。しかしながら、こうしたケースを複数回目撃しており、単なる偶然ではないように思われる。50個程度のパンチャー・トラップに対して、2～3個程度にクロナガオサムシが入っていた。



2011.8.14 豊田市御所貝津町

写真のように2頭の入っているケースもあった。なお、トラップに入ったクロナガオサムシは全て放逐した。パンチャー・トラップは他の季節にも実施されているが、以下のデータが示すように、全て8月に集中していることがわかる。

《データ》14-VIII-2011 豊田市御所貝津町 1♂1♀  
27-VIII-2011 豊田市阿蔵町 3♂1♀  
1-VIII-2010 豊田市面ノ木峠付近 1♂1♀

## 新シリーズ・昆虫と私(12)

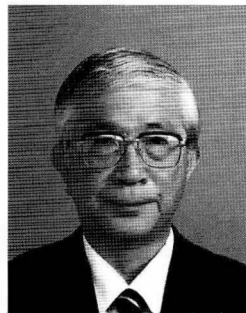
久 永 和 彦

小学4年生のとき、姉に買っていただいた一冊の昆虫図鑑の影響から、次第に採集や標本作りに夢中になっていきました。ある年、市内の古書店で小山長雄先生の「昆虫の実験」を購入したことから、昆虫教室のある大学への進学を強く意識するようになりました。

そのころ岡崎市康生町のオカダヤ店で「沖縄の蝶と三河の昆虫展」を見学して大きな感動を覚えました。大平先生の名前を始めて知ったのもそのときでした。

昭和41年の4月に、愛知教育大学に入学して、昆虫研究室での4年間は大変充実したもので、中でも愛知教育大学東南アジア自然科学調査団へ隊員としての参加は一生忘れられない経験でした。昭和45年4月に県立農業高校に就職、以降10年

間は、農業害虫が研究の対象でしたが、その後に理科(生物)に転科してからは、“昆虫の教材化”の視点からクロゴキブリやキイロショウジョウバエの飼育、水生昆虫類を指標にした水質調査などが中心でした。また、アオマツムシの分布調査をして、NHK教育テレビ向け番組「小さな侵入者」で放映されました。これも今では懐かしい思い出になっています。これからも昆虫を通して生命の神秘さを追い続けて行きたいと思っています。



## 新シリーズ・昆虫と私(13)

伊藤 昭博

昆虫にかかわったのは愛知学芸大学の3年の時、昆虫教室に入ってからである。大学に入ってからネットを振り回すとは思っても見なかった。大学卒業後も継続し、30歳の時、八重山自然調査隊に参加した。翌年から、学校人間となり、その後、昆虫とは無縁の社会に生きてきた。

退職・嘱託を終えるとき、今後は昆虫採集と考えたが、33年間のブランクは大きかった。私が採集に熱中した頃から、昆虫の分野は進化していた。

甲虫の1cm以下の同定、専門書購入、ケースの購入、標本作りとケース置き場の確保等を考えると昆虫採集の再開は無理と判断した。

63歳から、春は愛知の山、夏は信州や他の山、秋はアサキマダラ、冬は富士山が見える山登り。昆虫採集に変えて150山ほど登頂した。

70歳の時、椎間板ヘルニアで手術をし、山登りはダウンしなくてはならなくなった。

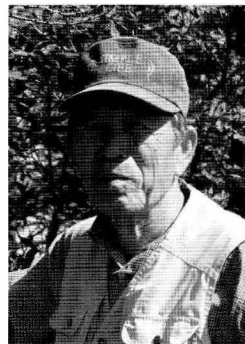
次に思いついたのは、ある程度の体力維持の散歩を活用することである。幸い在住地は山麓の農

村地域である。リコーのデジカメを購入して、当地の蝶と自生植物の画像撮影に熱中した。

蝶の標本管理は手間がかかりすぎるが画像ならば優しい。欠点もある。3年過ぎ、蝶は40種、植物は自生種628種、植栽615種、他の山登り関係も含めて2000画像をホームページ(インターネットで公開はしない)作りの技術を使い、CD盤に焼き付けた。

大平先生曰く、「虫屋は変人が多い」と言われたが、昆虫を通して多くの人と交流を深めたことは大きな意義があった。

最後に、魚眼レンズを使って蝶の舞を撮りたい。空中での蝶の動きは最も美しいのではないか。



## 新シリーズ・昆虫と私(14)

杉坂 美典

私は、小学校4年生の夏休みの自由研究として、家の近くにある岡崎公園で集めたチョウを出品し、その後も研究を続けるようになりました。

中学3年生のときに宮路山頂で採集したギフチョウ、高校2年生のとき浅間山頂部の草原で乱舞していたミヤマモンキチョウ、高校3年のときの信濃大町扇沢で雪渓上を飛ぶクモマツマキチョウ、大学3年生のとき台湾・墾丁国家公園で採集したキシタアゲハ、大学3年生のときマレーシアのタバで集団吸水していたアカエトリバナアゲハ、大学4年のとき沖縄県名護市で見つけたフトオチョウ、教師になって5年目に作手村で見つけたゴマシジミなど、一生忘れない記憶になって残っています。

今は自宅にある標本箱の中から、毎週2箱を学校で展示しています。その成果なのか、虫好きな生徒が多くなり、放課になると、校庭で網や虫カゴを持っている子供たちや虫のことを聞きに来る子供が増えてきました。

今後は、定年退職後に台湾や沖縄や北海道に出かけて、再びありし日のチョウたちに出会うのを楽しみにしています。

